



昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2019年7・8月
第329号

病院だより第329号 (2019年7・8月号)

発行者

昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

発行責任者

藤が丘病院長 高橋 寛

編集責任者

広報委員長 今井 敦

〒227-8501

横浜市青葉区藤が丘 1-30

Tel

045-971-1151

医療最前線

腎臓内科

腎臓に留まらない診療を行っています！

藤が丘病院腎臓内科 小岩 文彦

診療領域

腎臓内科は腎炎、ネフローゼ、高血圧、急性腎不全、慢性腎不全、透析療法、糖尿病や膠原病などを含む全身性疾患に伴う腎臓疾患など、腎臓疾患全般の専門総合診療を担当しております。食事療法(低たんぱく食、塩分制限食)の徹底により、腎機能障害進行の阻止・遅延効果が可能となり、透析導入の遅延効果がもたらされています。血液透析だけでなく、腹膜透析を含めた透析導入患者も多く、関連施設と協力しながら安定した透析療法を行っています。当科の特色ある診療として、通常の腎臓内科外来での診療に加えて、腹膜透析外来、遺伝性疾患である多発性のう胞腎(ADPKD)外来、関節リウマチなどの膠原病外来、慢性腎臓病の状態や治療、腎機能が低下した腎臓病の将来的な治療選択を行う慢性腎臓病外来などの専門外来があり、診療に当たっています。

難治性ネフローゼ症候群などには、積極的な免疫抑制剤の投与や LDL アフェレーシス療法の併用も取り入れ、膠原病に伴う腎炎や急速性進行性糸球体腎炎(RPGN)に対しては血漿交換療法も行っています。腎疾患診断のための腎生検はベッドサイドで行う超音波下経皮的腎生検を年間約 70 例行っており病理検査の結果は定期的に診療科内でカンファレンスを行って、診断、治療方針を決定しています。

透析療法では、年間約 60 人が血液透析、約 10 人が腹膜透析を導入しています。血液透析を導入した患



者さんには、家から通いやすい場所などご希望にそった透析施設をご紹介します。腹膜透析に関しては導入後も当科外来で管理し、約 50 名程度の腹膜透析患者さんが通院しており、神奈川屈指の腹膜透析患者さんを擁する施設となっています。

診療体制

現在の診療体制は出向中・留学中・育休中のスタッフを除いた診療科長以下 7 名、研修医を終了した内科専攻医 3 名で構成されています。

院内の他部署と連携した診療も活発に行われています。栄養科と共同できめこまやかな腎臓病食事療法を実践し、外来や入院患者さんに対応しています。IgA 腎症の治療では、耳鼻咽喉科と連携して扁桃腺摘出と内科治療を組み合わせた治療を積極的に行っています。



血液透析で使用する内シヤントの狭窄などの問題に対して放射線科と連携して血管造影、経皮的血管形成術

や、長期留置用血液透析用カテーテルの留置を実施しています。膠原病診療では昭和大学病院のリウマチ・膠原病科と連携して外来、入院患者さんの診療に対応しています。血漿交換療法を含めたアフェレーシス治療は他の診療科が担当する疾患にも関わって実施しています。

また、学生・研修医教育にも力を入れており、当科で実習・研修された先生方からは概ね高評価を頂いており、研究活動にも力を入れています。診療、教育、研究活動を通じて研修医が興味を持って入局できるよう、若手の育成にも取り組んでいます。これからも地域の腎疾患診療・膠原病疾患の診療に貢献すべく日々努力していく所存ですのでよろしくお願いたします。



患者ファーストな透析治療を目指して

藤が丘病院 透析センター

診療体制

藤が丘病院透析センターは正面玄関左手のローソンの奥に位置しており、日本透析医学会の認定施設として、腎臓内科医師7名、透析センター師長と専任看護師7名、専任の臨床工学技士1名、兼任技士11名を中心に、月曜日から土曜日まで毎日、透析診療を行なっています。2018年の血液浄化施行件数は合計で4,500件を超えますが、そのうちの90%は9床の血液透析センターで施行しています。



透析診療の特徴

透析センターは、院内の診療科や昭和大学藤が丘リハビリテーション病院に入院中の患者さんを対象とした血液透析医療が中心です。当センターの特色として9台の透析装置が全て個人用多用途透析装置であるため、



患者さん個人に合わせた処方透析が可能であること、通常の依頼から緊急透析まで終日対応可能であることです。日々変化する患者さんの血圧などの病態に合わせた透析条件を設定して、安全な透析療法を施行しています。また、血液透析で使用される透析液は超高純度の水が用いられ、安定した治療に貢献しています。

3階の集中治療室(ICU、CCU、EIU)内では、主に重症患者に対する各種の急性血液浄化療法を実施しており、持続緩徐的血液浄化療法など年間400件以上が実施されています。血液透析以外の血液浄化療法では、特殊な疾患に対する各種アフレーシス療法や腹水濾

過濃縮再静注法なども実施されています。

過濃縮再静注法なども実施されています。

2018年に当院で導入された血液透析患者は53名で、開設以来2,300名を超え、近隣の維持透析施設に紹介しています。当院腎臓内科では腹膜透析療法も導入していることから、当センターでは腹膜透析患者の外来診療も併せて管理しています。

災害時の透析療法

災害拠点病院としての取り組みとして、透析療法には不可欠な『水』を確保するため、市水・井水・給水車からの水の供給を切替えて利用可能なシステムを採用して、発災時にも血液透析を継続できるような体制にしていますので、近隣の医療施設と連携して災害時の透析医療に当たってまいります。



当センタ

ーは40年以上にわたって積み上げてきた技術と経験を生かして、医師、看護師、臨床工学技士間のチーム医療体制の維持、さらなる医療安全の向上、入院病棟や藤が丘リハビリテーション病院との連携の向上を目標に、これからも透析診療に当たってまいります。

研修医1年目を代表して

研修医 中村 明弘

通勤時にも日陰を選んで歩きたくなる炎暑の季節になりましたが、皆さままいかがお過ごしでしょうか。今年度より昭和大学藤が丘病院で研修医として勤務させていただいております中村明弘と申します。研修医1年目を代表してご挨拶させていただきます。研修生活が始まってあっという間に4ヶ月が経ちました。毎日が新しい事ばかりで不安なことも多々ありますが、先輩方に手厚くご指導いただきながら学ばせていただいております。病院の中で過ごしていて、医師という職業は皆様に支えていただいていた初めて成り立つものだと感じました。



未熟な私ですが1日も早く仕事を覚え、微力ながら藤が丘病院、そしてなにより患者さんの力になれるように日々精進してまいります。

こどもセンター セタまつり

7月4日(木)、こどもセンタープレイルームにて「こどもセンターセタまつり」を開催しました。催し物は金魚すくい、ガチャガチャくじ、うちわ作りです。金魚すくいでは子どもたちは真剣な顔で金魚をすくい、ガチャガチャくじは何がでるかワクワクしながら行っていました。また、自由に作った

うちわは、暑い季節を涼やかにしてくれました。今回のセタまつりでは、子どもたち、ご家族、スタッフ



全員で楽しむことができ、会場は大いに盛り上がりました。

スタッフ一同、入院している子どもたちや、ご家族へこの夏の一つの楽しい思い出を提供したいという思いをこめて、セタまつりを開催しました。開催してたくさんの笑顔を見ることができ、大変うれしく思っています。ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました。

(藤が丘病院こどもセンター 看護師 梅寄結以)

短冊に願いを セタ週間

セタにあたり7月1日～7日の一週間、藤が丘病院・リハビリテーション病院共に笹飾りを設置いたしました。

正面玄関に設置した願い事を記入するブースには、連日多くの方々の姿が見受けられました。職員や患者さんの思いが込められた色とりどりの



短冊で埋め尽くされた笹は、涼を感じさせるものでした。また短冊の他にも、色紙で作った天の川や星が飾られ、通る人々の目を楽しませていました。

病院の恒例行事となった笹飾りですが、笹の設置から飾りの作成に至るまで多くの方々のお力添えをいただき成り立っております。この場をお借りして感謝申し上げます。

皆様の願い事が叶いますよう、ささやかながら祈っております。

(藤が丘病院管理課 村上 加織)

第31回 藤が丘地域連携フォーラム

7月11日(木)、藤が丘病院にて第31回藤が丘地域連携フォーラムを開催いたしました。

平成23年9月から始まった藤が丘地域連携フォーラムも31回目を迎えました、今回は88施設125名と大変多くの地域医療機関の先生方や関係者の皆様にご参加いただき、病院関係者125名と合わせ250名が参加しました

各講演において、活発な質疑がなされ、講演会後の懇親会では意見交換が賑やかに行われていました。ご参加いただきました皆様方には感謝申し上げます。



なお、次回の地域連携フォーラムは、令和元年10月10日(木)に、腫瘍内科・緩和医療科、総合サポートセンター(退院支援部門)の講演を予定しております。多数のご参加を心よりお待ちしております。

第31回藤が丘地域連携フォーラム講演会 次第

1)「腰痛・神経痛をきたす脊椎疾患」

昭和大学藤が丘病院 整形外科 神崎 浩二

2)「金属アレルギー～対象疾患と具体的検査法～」

昭和大学藤が丘病院 皮膚科 中田 土起丈

(医療経営戦略課医療連携係 馬杉 朗子)

藤が丘盆踊り大会

7月13日(土)に藤が丘第三公園にて藤が丘二丁目B自治会夏祭り盆踊り大会が、8月3日(土)に藤が丘駅前公園にて藤が丘一



丁目盆踊り大会が開催されました。今年も藤が丘病院・リハビリテーション病院から大勢の職員が参加しました。

人々の熱気と音楽で会場は活気に溢れ、地域の方々は職員を温かく歓迎してくださいました。公園の中央には櫓が組まれ、これを囲むように自治会主催の出店やゲームなどが並び、地域の子供たちでにぎわう様子はとても懐かしいものでした。

事務部や看護部を始め、多職種の職員がお揃いの法被を身に纏い、地域の輪に加わり盆踊りを楽しむことができ、改めて藤が丘という町の温かさを感じるよい機会となりました。

(藤が丘病院管理課 村上 加織)

レイトサマーコンサートのお知らせ

今年度最初の院内コンサートになります。どうぞ気軽にお越しください。

日時：9月13日(金) 16時30分開演

場所：藤が丘病院1階初診受付前ロビー

演奏：Libre Saxophon Quartet(リーブル サクソフォンカルテット)



リーブル サクソフォン カルテットは、ママさんサクソフォンカルテットです。Libreとはフランス語で『自由』を意味します。ジャンルにとらわれず、小さな子供からご年配の方々まで楽しんで頂けるよう、アニメ・童謡・演歌からクラシックまで多彩なレパートリーを持っています。

(ボランティア委員会)

令和元年度第1回公開講座のお知らせ

開催日時：令和元年9月28日(土) 14:00~16:00(開場 13:30)

開催場所：昭和大学藤が丘病院 C棟講堂

プログラム：『身近な病気 高血圧 ～家庭で血圧を測りましょう～』

若月 大輔 昭和大学藤が丘病院脳循環器内科 講師

『めまい』

滝口 修平 昭和大学藤が丘病院耳鼻咽喉科 助教

診療統計 2019年6月・7月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2019年6月	2019年7月	2019年6月	2019年7月
外来患者数	28,791人 (1,151.6人)	30,471人 (1,172.0人)	4,634人 (185.4人)	4,909人 (188.8人)
入院患者数	15,712人 (523.7人)	16,866人 (544.1人)	5,536人 (184.5人)	5,741人 (185.2人)
紹介率	82.0%	79.6%	70.5%	73.1%
逆紹介率	64.6%	60.2%	87.7%	79.4%

《広報委員会委員》

今井 敦 原田 浩史 佐々木 春明 市川 度 小岩 文彦 川手 信行
 泉 紀子 角田 博子 高木 睦子 鈴木 美穂 藤宮 龍祥 東 哲士人
 岡部 圭吾 斉藤 あずさ 和田 洋一 (順不同)